すくらむ

vol.47
2014.03

http://www.scrum21.or.jp

特集

男女共同参画の視点からの防災

インタビュー

富士通株式会社　ストレージシステム事業本部
仮想ストレージ開発統括部　マネージャー

荒滝 新菜さん

「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト」
今月、市民グループを結成しました!

Interview（インタビュー） vol.8

かわさきを舞台にしなやかに、かろやかに、
いきいきと活躍されている、
魅力あふれる方を紹介します。

実力で勝負できる技術分野でこそ女性に活躍してほしい

富士通株式会社
ストレージシステム事業本部
仮想ストレージ開発統括部　マネージャー
荒滝（あらたき） 新菜（にな） さん

民間企業の技術系部署でマネージャー職として活躍する荒滝さんは、入社13年目。最近、男女を問わず上昇志向がなくなっていると言われることもありますが、荒滝さんのお話からは、立場が変わることで入ってくる情報も多くなり仕事にも広がりが出るなど、従来の「上昇」「昇進」からイメージされるものとはまた違った側面が浮かびあがっています。

開発は料理のようなもの

現在、ストレージシステム事業本部に所属し、お客様の業務に不可欠な情報を記憶保存する装置（ストレージ装置）を開発、提供しています。ストレージ装置は、システムのあらゆる障害が発生してもお客様の大切な情報を守るという重要な役割を担っています。ストレージ市場は成長を続けていますが、その中でも成長著しい新しい市場に向けた製品を開発するため、社内外でのテストマーケット、コンセプトや開発項目の練り直しを何度も何度も行っています。まだ認知度も低く苦労することもありますが、完全に一から製品を作り上げるチャンスはめったに巡ってくるものではないので、このようなプロジェクトで活躍できることはこの上ない幸運だと思っています。

開発の仕事はよく難しそうと言われるのですが、たとえるならば料理と同じだと思っています。料理をする際には、食べる人を思い浮かべてメニューを決め、次に必要な食材を買い、手順を決めて料理をつくり、味を整え仕上げ、お腹がすいたときに合わせて提供しますよね。開発の仕事もそれと似ていて、目的とするものをつくるために必要なことを一つ一つ分解し、必要なものは調達します。「サーバー」をつくる例で考えてみると、CPUがあり、ボードがあり、記憶するハードディスクがあり、そして中で動くプログラムがある。それぞれの機能を組み合わせて目的の物を作り上げていきます。慣れてしまえば出来ることだと思っています。面白いですよ。

期待や信念が不安や怖さを上回る

入社して3年目で初めて開発リーダーを任された時のことだったと思うのですが、当時は経験も浅く設計や検証方法に問題があり、社内の検証段階で多数の問題を出してしまいました。特に大きな障害が1つあり、それは私たちが作製した部分なのか、流用したモジュールなのか、外部のハードウェアなのか、ファームウェアの動かし方なのか、3か月、原因が掴めませんでした。2,000ページに及ぶ昔の回路図を黙々と読み返し、原因をつき止め解消しました。他の障害も上司・先輩方のサポートを受けながら一つ一つ取り除き、最後に装置に組み込んで実施した性能測定で目標どおりの性能向上を出すことができた時には達成感でいっぱいでした。そうしてやり遂げたことは、その後の自信になりました。こういった経験、場数を何度も踏むことで、今の自分にとって未知なことにチャレンジして乗り越えた後の達成感への期待、今回も出来るはずだという信念が、失敗するかもしれないという不安や怖さを上回るようになりました。

チームワークと業務の広がりがやりがいに

マネージャーになって変化したことのひとつは、部下が業務をきちんと遂行できるよう、やる気を引き出すアプローチをすることが大切だと意識するようになったことです。ときには家庭状況も踏まえてケアをすることも必要です。自分が働きかけたことで、ある業務に対するスタッフのパフォーマンスが上がるのを目の当たりにし、チームワークがよくなっていくことを感じた時は、私自身もやりがいを感じます。このようなことはマネージャーに就任したからこそ得られた視点です。

もうひとつは、業務が格段に広がったことです。マネージャーであるということ、現在所属する部署が新製品を開発していることから、今は社内のさまざまな情報がたくさん入ってきます。これまでは、入ってくる情報といえば工場、品質、購買にまつわるものでしたが、異なるプロジェクトや製品、通信、サーバー等の部署からも情報が入ってくるようになりました。これらの情報を取捨選択し、判断し、業務を遂行していくことは、とてもやりがいを感じます。失敗したらその責任をとらなければならないのですが、それ以上に予想外の面白さに出くわしたり新しいことを考えられたり、チャレンジできる面白さの方が勝っているため、前向きに関わりたい気持ちのほうが強いです。入社当時から面白い技術をつないで世に送り出したいとの思いを強く抱いてきましたが、今、その頃の想像をはるかに超える仕事の広がりを感じています。

マネージャーの職務として、プロジェクトの推進や関係部門との協調以上に、最も重要と考えているのはメンバーのやりがいと幸せです。一人一人のもつ個性や特性を生かし、相補的相乗的に結合して最大限力を発揮できるように配慮し総体的に高い生産性をだすことができるようにすることが、マネージャーの役割だと考えています。

女性も技術分野に当たり前に進めれば

理系で技術系を選択する女性は、まだまだ少ないです。自分も親に理系に行くと伝えた時は驚かれました。そういった背景からも、工学部には「なんとなく工学部に来ました」という女子学生はほとんどおらず、どうしても技術系の大学に行きたいのだという強い意志を持った方が多いと思います。結果として、非常にポジティブかつ積極的で優秀な学生の方が多かったように感じます。技術分野は実力主義。実力さえあれば認められ活躍できる職場であるということです。女性にこそ、技術分野に積極的に入ってどんどん活躍していってほしいです。

ただ今後は、もう少し「なんとなく工学部に来ました」というような、当たり前に技術系の分野にも女性がたくさん進めればいいと感じています。そのためにも多くの女性の活躍事例が身近にあるのがいいと思います。

IT系の会社ですので、例えば在宅勤務が簡単にできるよう、出勤するか休むかの二者択一ではなく、体調不良や子どもの看護、親の介護、定年後の再就職などによる多様な働き方を支える仕組みを技術者としてサービス提供できればと思っています。

中高生向けキャリア支援冊子「はたらくって、おもしろい」（vol.2）を発行！

好評を頂いた中高生向けキャリア支援冊子「はたらくって、おもしろい」第2号を発行しました。防災士や鍼灸マッサージ師、ライターといった職業人や、さらに地域でも役割をもって活動する方など、Vol.1に引き続き10名の方にご登場頂き、合わせて20名の方のキャリアをご紹介しています。巻頭ページでは、普段、あまり区別することなく使いがちな「働く」「仕事」「職業」「労働」といった言葉の違いについても触れています。

「将来の夢がまだわからない･･･」という中高生、「もう自分がなりたいものは決まっている」という中高生が、ここに登場している方々のキャリアを手がかりに社会との接点を見つけ深めるために、ぜひ「はたらくって、おもしろい」をご活用ください。

すくらむ21では、職場体験やインターンシップ、職業講話の講師派遣、出前授業など、学校向けにキャリア教育のサポートを行っていますので、お気軽にご相談ください。

※「はたらくって、おもしろい」（vol.1）は残部が大変少なくなっておりますので、すくらむ21ホームページ掲載のPDFデータをご活用ください。

特集

男女共同参画の視点からの
防 災

平成 25 年修正の川崎市地域防災計画（震災対策編）では、新たに「男女共同参画の視点への配慮」が加わり、自主防災組織等による地域防災活動や避難所運営における「男女双方の視点への配慮」が計画に反映されました。

> 過去の災害発生時の経験から、被災時に増大した家事、育児、介護などの家庭的責任が女性に集中することなどの問題が明らかになっている。／こうした被災・復興状況における女性をめぐる諸問題を解決するため、市では、この計画のすべての事項を通じて、被災時の男女のニーズの違いなど男女双方の視点への配慮を行うとともに、地域防災活動における女性の参画推進など、男女共同参画の視点を取り入れた防災体制の確立に努めるものとする。
> （第 1 章　第7節 男女共同参画の視点への配慮）

他方で、地方防災会議では法律による職指定のために女性委員の登用がなかなか進まないという状況にあります。川崎市における川崎市自主防災連絡協議会も 78 名のうち女性 1 名というのが実情です（平成 25 年度）。

よく言われるように、大規模な災害の発生直後に公的支援が望めない状況を想定すると、暮らしの場である「近隣」や「地域」を基盤に自助・共助の仕組みをつくっていくことが効果的です。ですが、そこに女性の視点、女性が“存在しない”ということが先の災害実態からもいろいろと明らかにされています。

2004 年のスマトラ沖地震インド洋津波をきっかけに、自然災害による被害には明確な男女差があることが明らかになり、防災や復興過程に女性の視点を入れる必要性が国際的な流れとして提起されました。「災害によるダメージが男女で異なる」（=女性の方が多くのダメージを受ける）状況は日本でも同様であり、どのようなダメージを受けてしまうのかを阪神淡路大震災、中越地震、東日本大震災での実情を踏まえて紹介します。

1 災害による人的被害（女性の犠牲者が男性より多い）

阪神・淡路大震災の死亡者数を男女別にみると、男性 2,713 人、女性 3,680 人で、女性が約 1,000 人多く亡くなりました。亡くなった女性の多くは耐震・耐火性の低い木造アパートに住む高齢女性でした。

2 避難所や復興過程で女性のニーズがくみ取られない

新潟県中越地震の避難所でプライバシーを守る仕切りの設置が却下されたり、洗濯ものを干す場所がない、女性や子育て用品の備蓄がないなどの問題が起こったりしました。東日本大震災の避難所では、女性特有の健康問題（膀胱炎、尿漏れ、生理不順、妊娠・出産など）があらためて明らかになりました。（図1参照）

3 女性の労働負担が増え、女性が復興から取り残される

阪神・淡路大震災の際は出勤した男性が多く、片づけ、家事、育児、高齢者の世話といった、いわゆる「嫁役割」を女性が担わざるを得なかったと言います。その結果、出勤できない、行動範囲が狭められる、情報を得られない状況に女性が置かれ、当時、神戸・大阪間で約 10 万人が失職し、その多くはパート労働の女性であったと言われています。

4 女性に対する暴力

公式の記録には残っていませんが、阪神・淡路大震災の際はDV相談が増加し、レイプ被害の相談もあったとされます。

5 復興に向けては、男性に比べて女性が就業しにくい

支援金や義援金は世帯主へ渡るなど、支援制度も女性にとって不利な状況になりがちで、復興への課題となっています。

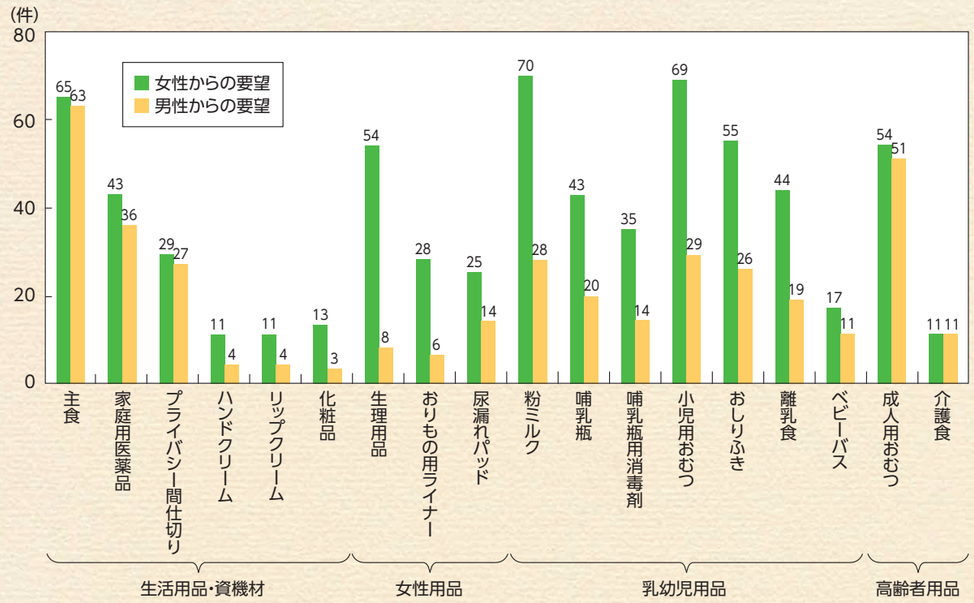
男女共同参画の視点から考える防災は、同じ災害を経験し、同じ家族で、同じ地域コミュニティに暮らしていても、その困難の質や度合など、女性と男性とでは異なった被災体験をするということの認識から始まります。これまでの災害時においては、外部からの支援者は少数の男性責任者を通してしか、避難所や地区内のさまざまな立場の人々のニーズを知ることができなかったと言われています。

男性のリーダーとなる方は責任感も強く、日頃から地域活動に積極的であり、苦労の多い世話役をかって出てくれるタイプが多くいらっしゃいます。にもかかわらず、災害時においては、女性と男性とで必要とするものが異なっている、避難所の環境に対する感じ方が違う、優先課題の認識が異なるといった点で十分な情報確保が容易でないため、物資の品目が偏ったり、配布がうまくいかなくなったりすることがあります。一人の人がすべての立場の人を想像するのは難しいということを、まず認識することが必要です。

困難の感じ方や必要な支援に違いがあるということを前提に役割と配置を考えていくことで、お互いの心身の負担を軽減しながら共同して円滑に避難所運営ができる環境をつくっていくことが可能になります。避難所生活は想像以上に負担が大きいものであるということを踏まえ、男女を問わずその時出来る人が分担することとし、性別や年齢で役割が固定化することがないよう日常の意思決定の場のあり方から見直すこと、地域の実情と結び付けて、災害時の男女の困難をきちんと話合っておくことや、そうした環境づくりを行っていくことが求められています。また、女性自身が当事者として、災害時に直面する問題について想像力を広げ、生活に根差した視点から防災・災害・救援・復興のあらゆる場面において主体的に行動し、リーダーシップを発揮できるように取り組んでいくことも地域防災活動では求められています。

女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト（JKB）作成
『男女共同参画の視点でつくる避難所運営ガイド』

図1. 備蓄や支援物資に対する要望（男女別、複数回答）



（備考）1. 内閣府「男女共同参画の視点による震災対応状況調査」（平成 23 年）より作成。
2. 調査対象は、被災 3 県（岩手県・宮城県・福島県）の 108 地方公共団体の男女共同参画担当。調査時期は、平成 23 年 11 月。
出典：内閣府男女共同参画局、2012、『平成 24 年版　男女共同参画白書』

つながる ふくらむ ふかまる

すくらむ21スタッフがオススメする、本、映画、アートなどを紹介します。

Photo Book 「水俣物語」

尾﨑たまき（著）

2,800円（税別）／2014年
新日本出版社

この情報誌45号のインタビュー記事でご紹介した、水中写真家の尾崎さんがライフワークとして撮影している水俣の写真集。この写真集には、海の生き物だけでなく、漁師さんや川、陸のうえの畑、花、虫、鳥が収められています。さまざまな生物が息づき、たくましく再生する海は、川、山、畑につながり、水俣の人びとの生活につながっています。この写真集に収められた水俣の物語は、3.11の被災地を勇気づける力強いメッセージでもあります。

Book 『新しいパパの教科書』

NPO法人
ファザーリング・ジャパン

1,080円（税込）／2013年
学研教育出版

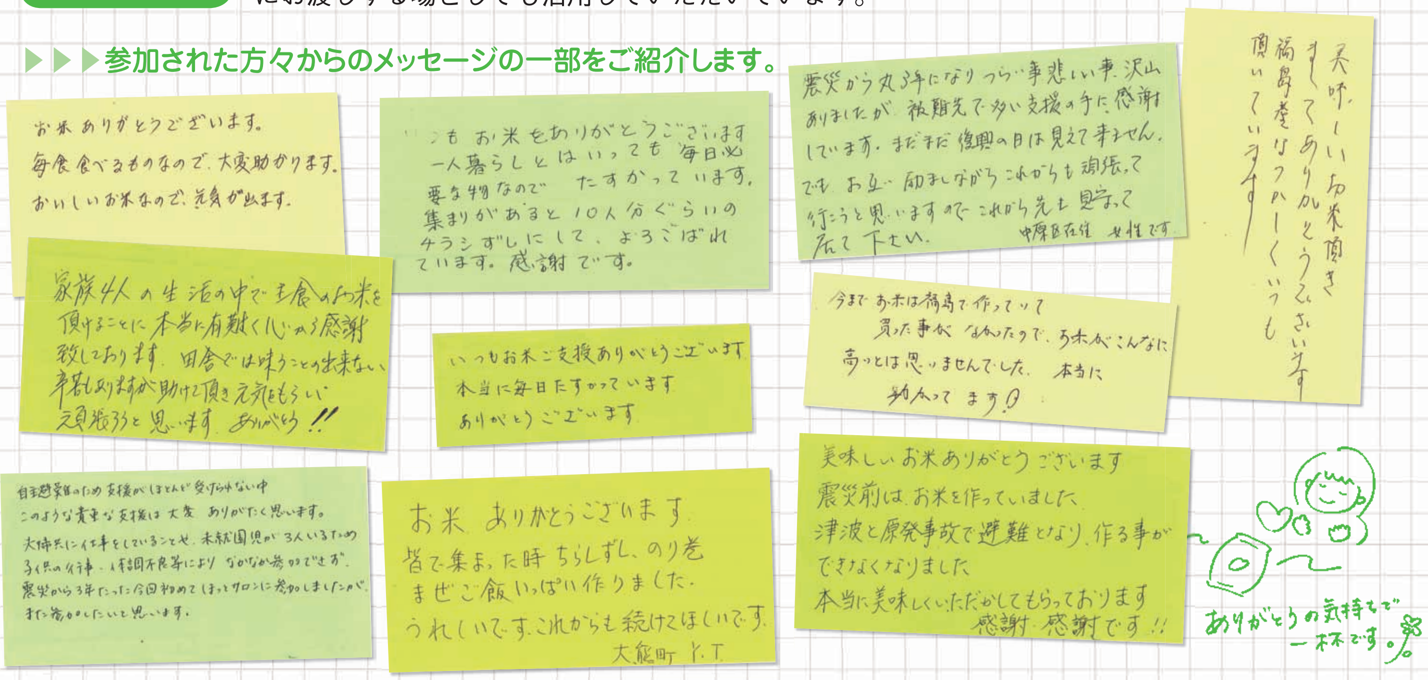
目指せイクメン！子育てに熱心な、これまでの価値観に縛られない新しいタイプのパパが増えています。そんなプレパパ、新米パパへ「父親であることを楽しむ生き方」を提唱するファザーリング・ジャパンによる育児書です。【マインド】【知識】【スキル】【ネットワーク】の４つをテーマに、パパになる準備や心構え、おむつ替えのコツや料理などの実践テクニック、子どもやママとのパートナーシップ、先輩パパからのメッセージ、仕事や地域との関わり方など、役立つ情報が満載。プレパパ、新米パパ必携の良書です。

避難者への支援継続を

すくらむ21では、川崎市への避難者支援の一環として、2011年８月より「東日本大震災で避難している女性のための避難者サロン」を開催しており、2014年度も毎月実施していく予定です。

このサロンは、サポートを必要とする方とサポートする方とをつなぐネットワーク「ふんばろう福島プロジェクト」(http://wallpaper.fumbaro.org/fks-branch)から提供されるお米を避難者の方々にお渡しする場としても活用していただいています。

▶▶▶参加された方々からのメッセージの一部をご紹介します。



レシピ Recipe

パパが作る

かんたん三色そぼろ弁当

息子の中学入学と同時にスタートした朝のお弁当づくりも、はや一年がたちます。朝の早起きがツライ日もたまにあるけれど、自分の分も作って会社に持参すれば昼食代も減らせるし、健康的です。お弁当生活で一番おススメしたいのが、今回ご紹介する「三色そぼろ弁当」。包丁をほとんど使わないので、簡単で低カロリー、健康的。年代や性別を問わず、多くの人に好まれるお弁当で、息子も私も大好きです。

レシピ

材料（３人分）※作りやすい分量

(A) 鶏そぼろ
鶏ひき肉……200g
しょうゆ……小さじ４
酒……小さじ４
砂糖……小さじ４
水……120cc

(B) 卵そぼろ
卵……２個
水……大さじ２
砂糖……小さじ１
塩……２〜３つまみ

(C) ブロッコリー塩ゆで
ブロッコリー……１株
塩……小さじ１
ごま油……大さじ１

(D) その他
鮭の瓶詰め、ごま油（適量）

❶（A）の材料を鍋に入れて、泡立て器でよく混ぜます。よく混ざったら中火にかけ、時々混ぜます。全体に火が通ったら「鶏そぼろ」の完成です。

❷（B）の材料を器の中でよく混ぜます。ごま油を薄くひいたフライパンを火にかけ、材料を一気に流し入れ、菜箸で混ぜます。これで「卵そぼろ」の完成です。

❸（C）ブロッコリーの茎の部分を包丁で落とし、花の部分を手で小さくちぎります。鍋に塩を入れて湯を適量沸かし、ブロッコリーを茹でます。２分ほどで水切りボールにあけ、ごま油をざっと回しかけ、全体を混ぜれば「ブロッコリーの塩ゆで」の完成です。

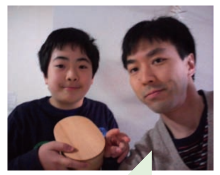
❹お弁当箱にご飯を詰め、❶❷のそぼろと鮭の瓶詰めをトッピングし、❸のブロッコリーを詰めれば、「三色そぼろ弁当」の完成です。

アレンジ

野菜は彩りのバランスと栄養を考えてブロッコリーを使いましたが、他の野菜でももちろんOK。今の季節、菜の花やアスパラの塩ゆでもおススメです。菜の花のように風味を楽しみたい野菜は、仕上げにごま油を使うのではなく、しょうゆを少し垂らすくらいでもよいかもしれません。

【記事作成】太田修嗣さん
（会社員／NPO法人くるみー来未 理事長）

「NPO法人 くるみー来未」は、自閉症スペクトラムのように多様な特性のある人たちと家族のQOL向上のため、川崎市で活動を始めた団体です。
URL http://ameblo.jp/npo-kurumi/



5月10日（土）11〜13時に、すくらむ21で市民講師事業「パパと子どもで簡単おいしいお弁当づくり」の講師を務めます。参加ご希望の方は、すくらむ21までお問い合わせください。

すくらむこらむ 多様性への配慮

３年前、私は、人事部門で障がい者の採用や支援といった仕事を担当し、知的、身体、精神と異なる障がいを持った仲間４人とチームを組んで、総務や社内の営繕業務にあたっていました。３．１１震災時、止まない余震や交通機関が麻痺する中、彼らの反応は様々でした。●１０㎞ほどの行程を果敢にも徒歩で帰るという選択をしたのはＳさん。時に足に痺れを感じるというハンデを持つＳさんの決断は無謀にも思えましたが、「無事に着くか否かよりも、決まって飲んでいる薬が飲めないことの方が不安なんだ」とＳさん。●揺れると同時に７階から階段を一気に駆け下り、自身の身の安全を確保したＢさん。本能的な行動だったのかもしれません。強がって見せるものの不安であることは明らかで、自宅に電話をして親御さんとの連携を図りました。●Ｍさんは家に帰れないまま、時間が経つにつれ不安定な状態に陥り、もはや通常のコミュニケーションが取れなくなりました。その後、Ｍさんに「平時」が戻ってくるまでには、おおよそ３か月を要しました。できるだけＭさんに寄り添い話を聞きながら、後は、ひたすら回復を待っていました。●震災が与える打撃は、人それぞれです。そして、支援の方法、回復の仕方も、人それぞれ。求められるのは、個々の事情に見合った支援なのだと実感します。真に必要な支援は何なのか。私たちは冷静に見極め、一括りにすることなく、多様性に配慮していかなければならないのではないでしょうか。

施設関連情報
～より安心して利用できる施設に～

川崎市男女共同参画センターでは、ご利用者の皆様により安心して快適に当施設をご利用いただくために、日々改善や修繕などの取り組みを行なっております。

防災に関する取組み

避難訓練の実施（年2回）

避難誘導をスムーズに行うとともに、日頃の防災意識を高めるため、時には利用者のみなさまにもご協力いただくなど、年2回、防災訓練を実施しています。

懐中電灯を設置（各フロア）

部屋内、廊下の消火器の近くなど、各フロアごとに複数の懐中電灯を設置しています。

防災頭巾の設置（保育室）

保育室には、部屋の定員10名分の防災頭巾を常備しています。

職員研修の実施

地震や火事といったケースごとに「危機管理マニュアル」を作成、適宜改訂しているのはもちろん、災害時に適切な対応ができるように、このマニュアルをもとに職員研修を実施しています。

受講者への避難経路アナウンス

すくらむ21主催の講座・セミナーでは、冒頭に避難経路のご案内をすることで受講者のみなさまに少しでも安心して参加いただけるよう取組んでいます。

「高津区防災ネットワーク会議」への参加

すくらむ21が所在する高津区には、大規模災害時に地域で連携・協力しながら課題解決・対応するために発足し、区内の関係機関が参加する防災ネットワーク会議があり、すくらむ21も「避難者支援部会」に参加しています。

すくらむ

発行年月 2014（平成26）年3月
編集・発行 川崎市男女共同参画センター（愛称：すくらむ21）
所在地 〒213-0001 川崎市高津区溝口2-20-1
ホームページ http://www.scrum21.or.jp/

電話 044-813-0808
FAX 044-813-0864

デザイン ジャパンスタイルデザイン株式会社
イラスト 榎本明日香

古紙パルプ配合率70%再生紙を使用
この冊子は、古紙パルプ配合率70%の再生紙を使用しています。このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。